つばさっ子

2015年　　1月号

あけましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願いします

今月の行事

1日～3日		休園日
9日（火）		避難訓練
16日（金）		お誕生日会
	18：30～20：30	パパ懇談会
17日（土）	9：00～11：00	うさぎぐみ懇談会＋試食会
24日（土）	9：30～11：00	ぞう・きりん合同懇談会＋試食会
25日（日）	10：00～	子育てと保育を考えるつどい（アトムにて）
29日（木）	10：00～10：30	絵本とピアノのコラボレーション会
	13：30～	内科検診

※30日（金）は18:30～全体職員会議です。早めのお迎え・家庭保育などご協力の程、よろしくお願いします。

クリスマス会&祖父母交流会 12/25

51名のおじいちゃん・おばあちゃんが来てくれました。

未満児のおへやにも本物のサンタが現れました

新しい年が明けました！！　今年もよろしくお願いいたします！！

仲嶺　真弓

園長に就任して初めてのお正月を迎えました。今年度も残り 3 カ月となりました。毎年のように残りの日々はきっと慌ただしく過ぎ去って行くのだろうと予想します。けれど、慌ただしい中でも一瞬一瞬の時間や出来事を大切にしていきたい、そんな思いでいます。今年もよろしくお願い致します。

つばさっ子には毎月、育む会代表の木村さんが記事を掲載してくれています。新年の今月号にも原稿を寄せてくれました。木村さんのページは保育とはまた少し違う視点で書かれていることが多いので、自分の生き方や、人生という大枠で物事を考えさせられ私はいつも興味深くこのページを読んでいます。みなさんはどうでしょうか？　ぜひ木村さんのページを読んでの感想も聞かせていただければ嬉しいです。

今月号の木村さんのページに倣って、昨年の自分を振り返って一文字で表すと私は、「生」でした。園長を引き継ぐにあたり自分は人生で何を大切にして生きたいのかを自分自身に問い続けました。引き継いだ後も日々おこる様々な出来事について自分は何を思い、どう考えるのか、それはまさに自分はどう生きたいのかに繋がる問いに悩みもがき続けた昨年でした。そして 2015 年は「再」の一文字で表せるそんな年にしたいと思っています。“生きる”ことを考え続けた昨年だからこそ、次は“再生”に向かう！！　そう心に誓った新年の始まりでした。

12 月　運動会が終わりました

2014 年度の運動会は、姉妹園のアトム共同保育園園舎建て替えがあったため、大人数では無理があるので、季節外れではありましたが 12 月に開催しました。当日は、たくさんの家庭保育協力のおかげで、運動会でチャレンジする子どもたちを職員総出でサポートすることができ、無事終えることができました。ありがとうございました。

前日からの予想以上の大寒波襲来に職員も困惑。それでも 1%の望みをかけて当日の朝まで会場設営を待ちました。年度初めに「運動会は青空の下、園庭で取り組ませてやりたいのに、なぜ 12 月にホールでするの！？」と直接事務室に来て思いを打ち明けてくれた保護者もいました。12 月にするのは苦渋の判断。職員ももちろん青空の下でしたい気持ちはある。最後の 1%の可能性をなかなか捨てることはできませんでした。けれど青空の下ではできなくても、子どもたちは青空よりも素晴らしい感動を私たち大人にくれました。それは、職員が思っていた以上の感動でした。

つばさで繰り広げられる運動会は一般の運動会とは一味違っていて、できることだけを見せる運動会ではなく、子どもたちが自分で決めたことにチャレンジすることを一番の目的にしています。 運動会は自分ができるようになりたいことができるまでの通過点でもあると思っています。だから当日できなかったことがあってもいいのです。できなかった体験はきっとこれからの子どもたち自身の人生のどこかで、必ず実を結びます。大事なことは、できる、できないではなく、子どもたち1人ひとりが心に何を感じたかだと思っています。2014 年度も、生き生きとした表情で自分で決めたことに取り組む子どもたちの姿を見て、やはり大事なことはこれだ！！　と大きくうなづけました。

ぞうぐみ開会宣言

上手に飛べるかな？

名物：たたみのぼり

きっと乗り越えられる！

大人の思考を少し考え直してみませんか？　～保育所巡回について～

仲嶺　真弓

つばさ共同保育園では、年２回“保育所巡回”を行っています。保育所巡回って何のこと？と思われる方もおられると思うので少し、説明をさせてもらいます。保育所巡回といっても園によって取り組み方は違いますが、つばさでは子どものありのままの姿を保育士だけではなく、保護者も知り、その子自身が自分の力にかえていけるように大人がどんな関わり方をすればより良い方向に向かえるかを考えることを目的としています。関わり方だけでなく、我が子のありのままの姿をどう捉えればいいのかが具体的にわかる機会でもあります。そんな意味のあるとても大切な機会が、“保育所巡回”であります。〇か月検診の時などによく聞かれる“発達相談”の目的も同じなのです。でも保護者の中にはその言葉を聞いただけで一歩引いてしまう方も多いように思います。どちらも子どもが日々の生活で困っているであろうことについて考えることができるとても大切な機会です。言葉のイメージに惑わされず、大人の思考を考え直してみることが、求められているように思います。

今回の保育所巡回で、そのことに気付いた人が他にもいたので、保護者、保育者両方の視点から思うことを感じたままに書いてほしいと依頼したところ、快く引き受けていただけたので掲載します。ぜひ、読んで考えてみて下さい。

巡回相談体験（臨床心理士との談話）

うさぎ・きりん組　小笹弘美

皆さんは巡回相談・発達相談・臨床心理士に相談と聞いてどんな印象を持ちますか？発達障害？精神的に何か問題ある？ウチとは無縁だわぁ！と、思ってしまうでしょうか？

今回３番目の息子（きりん小笹耀大）の事で、臨床心理士とお話しできる機会を得て、皆さんにもぜひ推奨したいと思い「つばさっ子」へ感想を載せて頂きました。

体験後は一般的に抱く冒頭の様なマイナス印象とは全く違い、子育てをしている全ての人が利用したらいい制度なのに！と実感できる内容でした。

きっかけは担任のよっちゃんから「ようたの頑固な部分とか、集団行動の中で集中できない部分を専門的な視点からみたら、新しいようたを発見できて対応もしやすくなるかもしれない。だから臨床心理士と相談して、保育士の視点からだけではわからない耀大の事を知りたいねん。」と声をかけられた事でした。確かにヤンチャでゴネるとややこしいけど、そこは悩みの少ない３番目の子なので「家ではそんなに気にしてないし、専門家に相談するほどではないで～」と最初は断ってたのですが，興味もあり少し気になる事を思い出したので体験する事にしました。決まれば興味深々の私は相談の場に同席させてもらうことに…。保護者同席の実績は今回でまだ 2 回目らしいのですが、その子の事を知って一番楽になれるのは保護者なのに、なぜ今までこんなに同席例が少ないのか不思議に思いました。

当日、子どもの様子をみてきた心理士に私から家での様子と保育士から保育園での様子を話し，相談が始まり進むにつれて、とても気持ちが楽になり安心感を得られました。ようたの頑固対応の時に一定ラインを超えると無視する対応を取る事があったのですが「それも対応の一つでそれでいいよ」とか、ゴネる時間が長く収拾つかない事を「今は付き合うしかないね。しんどいけど…(笑)」とか、これだけでは何が解決？と思われるかもしれませんが、その理由や解説を聞くと「それでいいんだぁ！」と何ともホッとする気持ちにさせてもらいました。長くなるので詳細は書けませんが、大人が気になる子どもの言動・行動は子どもであるからこその理由であり、とても理解しやすく無理なくスッと心の中に入ってきます。対応も特別な事を要求される訳ではなく、理由を知る事で視点や気持ちを切り替えるだけのように感じました。もちろん具体的な対応も教えてくれますよ。

育児中は、こんな時あんな対応してしまうけど本当 3 丈夫？間違ってるのかな？子どもにこんな対応するべき

じゃない？と疑問に思う事はしょっちゅうあると思います。そんな悩みを心理士の先生はいとも簡単に親の気持ちが楽になる対応と考え方を教えてくれます。育児でイラッとする経験のある保護者全ての人にこの気持ちの軽さを体験してほしい！と思いました。
発達相談って発達の未熟さや障害だけではなく、発達の過程で出てくる色々な問題(魔の２歳児なんて母の悩みの典型ですよね～)を専門的な視点から子どもを理解して母にアドバイスをもらえる場なのだと思いました。なのに、なぜ普及しないのだろう？ひとつは臨床心理士が足りなくてお話できるのが特別な場に限られるから。もう一つは私たち保護者の偏見？専門家への相談＝発達障害の可能性の指摘と勘違いしてしまうから、という部分があるのではないでしょうか？私も偏見はないと自分で思ってましたが、よっちゃんから提案された時「相談する程ではない」と断りかけ、「1～2 歳児の時の発語の遅れ」を思い出して受けたという経緯があります。「相談する程ではない」と思う時点で偏見が少し入ってるのかもしれませんね(^^；
巡回相談は特別な事ではなく育児中の保護者なら誰でもいつでも利用できる制度になって欲しいと切に願います。最初は深くない悩みがきっかけでしたが、色んな事に気付けた貴重な機会を与えてくれたよっちゃんに感謝です‼
　今回の相談のきっかけは前述したように発達の遅れなどとは無縁の事例からでしたが、すっかり忘れてた 1～2 歳児の頃のようたが発語が少なく言葉の発達の遅れを心配してた時期があったのを思い出しました。今では全く気にしてなかったのですがついでのように話をすると、どうやら少し発達もゆっくりめ傾向らしく個人的にも相談に乗ってもらう事になりました。個人的な相談の内容は、ようたの得手不得手を見極めて得意な部分を伸ばすというもの。とても興味を持ちました！大人も同じですが苦手な事を頑張れと言われるのは苦痛でしかありません。得意な事なら楽しいし結果もでる。得意な事で成功体験を繰り返せば苦手分野でも成果が出る。という良い循環が生まれそうですよね♪
相談者は思いの外多く来年 4 月まで順番待ち。耀大の特性を知ることができると思うと今からとても楽しみです♪こんな機会がなければ，耀大が感じてる周りとのペース違い（みんなが興味を示す絵本は耀大には文章が長すぎて興味の対象外となりお話を聞かずうろうろする等）を理解する事もできませんでした。小学校に上がる前に気付けた事で、周りの理解も得られず単に落ち着きのない子と思われることも防げ、本人が感じる違和感が大きくなる前に方向修正する事も可能になると私は思ってます。
やんちゃ・落ち着きがない・逆におとなしすぎるとか、ちょっと周りとペースが違うのはもしかしたら理由があるのかも。その子なりの理由を理解できれば、対応もしやすくなるし気持ちも楽になると思います。育児中のやり難さや・何となく感じる違和感、もちろん耀大の発達がゆっくりなのも障害と直結してる訳じゃありません。ようたの個性であり、今後の成長に支障があるとも思ってません。幼児期に感じるちょっとした違和感のほとんどは環境を整えることで解決する事が多いそうです。子どものやり難さは個性です。大したことないから「こんなものかな？」と放置してその子が誤解されるような環境に置かれる方が心の発達に影響するかもしれません。ちょっと気になる事がある時は思い切って相談してみてください。きっと心が軽くなると思いますよ！

　まずは保育士と雑談する事をおすすめします。今回もよっちゃんといっぱい雑談してたからこそ、耀大の気になる部分に気付いてもらえ、私も偏見なく巡回相談を体験できたのだと思います。家の様子と集団の中の様子を合わせて知る事で、今まで気づかなかった子どもの様子が見えてきます。つばさ&アトムの保育士は本当に子どもの個性を重視し理解してくれてます。これは 10 年間 4 人の子どもを預けてきた経験からの私の実感です。親の視点からは見えない子どもの特性を知れば、子供の事がもっと理解できて子供とのやり取りが楽しくなりますよ。
　そして親からも保育士からの視点からも判断が難しくなった時に、専門家の視点を取り入れると「あ～なるほど！」と心が軽くなれる体験ができると思います。

大切にしたいこと

烏野　　佳恵

7 年前、以前働いていた職場で 3 歳児を受け持った時に、ちょっと手のかかる子がいました。やんちゃな子だけど、今までもそんな子はいたし、保育士がなんとかすればいいと思い、それまで受け持っていた担任も他クラスの保育士も頑張っていました。けれど大変さは続き、私もそれまで 7 年間勤めてきた中でも、あの手この手も通じずどうしたら良いか途方にくれて、日々仕事は対応に追われて進まず、体調も崩し、悩んだ末に相談した人に「その子は発達障害かもしれないね」といわれて初めて発達障害というものを詳しく調べ始めました。調べた中で使えそうな対応を試してみると、本当に子どもとの関係が良くなり、今までなんで？なんで？と思っていた事が理解でき、手ごたえを感じると面白くなってきて、それ以来私は今まで発達障害について興味をもって自分なりに勉強をしてきました。

調べているとまずひっかかったのは自分の息子についてでした。「これもこれも、だいたいあてはまる。」「これはちょっと違う。」思えば生まれた時から育てにくい子で、病院を退院した日からしばらく毎日夜は 1 時 2 時まで泣き続け、日中も寝たと思っておろすと泣く、少し大きい音がすると火がついたように泣く、人見知りは普通で言葉も早いし、理解も出来たけど、なんだかやっぱり手がかかるわが子に当てはまったことで「なるほど」と納得できました。当時、アトム共同保育園の 4 歳児クラスに在籍していたので、担任と園長にそのことを話して、集団での姿を見て「うちの子どう思う？」と聞いたのでした。その時は「そうでもないかな」「しいていえば手がかかるかと聞かれればかかる方かな。」　やっぱり園でもやりにくさのあるうちの子だったんだということを知りました。もともと私は人と同じ様にして欲しい、なんでできへんねんと押し付けて怒って、とにかくやらせる子育てをしていました。何よりそれが長男にとって一番よくない。どんな子でもそんな子育てをしたら潰れてしまうかもしれない…。だけど、どちらかと言うとちょっと他の子と違うわが子を受け入れられないことが押し付けになっていたんだとやっとそこを認められたのでした。発達障害の事を調べているうちに、発達障害の子どもたちにはその子にあった丁寧な対応が大切で、それは、発達障害であろうがなかろうが、そうする事は子どもたちにとって何もマイナスにはならない、保育でも子育てでもそれは同じだということはがはっきりしました。

保育園は朝から夕方まで子どもたちと一緒にいる時間が長いので、子どもたちとの関わりが密になります。だからこそ対応に悩み、どうしたらいいかわからなくなることもあります。保育士といっても全て子どもについて理解しているという訳ではありません。でもなんとかしたいという思いはあります。そこで専門家に相談できるということは、自分たちだけでは解決できないことが見え、考え付かなかった方法を示してもらえることで新たな子どもとの関わり方を発見し、どうすることが子どもたちにとって良いのか考えるきっかけになります。それは保育内容の充実にも繋がります。

保育園では巡回相談として声をかけていますが、現実的には壁が高く、その言葉を聞くとあまりいいイメージを持っていない人も多いのではないでしょうか。けれど、常に私は巡回相談、発達相談、そして発達障害という名前のついた特性のイメージを変えたいと思っていました。発達がゆっくりでも特徴的でもその子をそのまま、良い所をそのまま伸ばして、でも弱い所も目を背けず大人がそのまま受け止めて、サポートしていきたい。そのためにはそのことをそのまま話せる関係でありたい。でもそれはなかなか難しく思え、保護者に誤解されたくないがために必要以上に構え、本当は伝えたい事を伝えられず躊躇してしまう。話をするのに常に試行錯誤していました。それが今回小笹さんとのやりとりで、巡回相談を通して、心理士さん、保護者、園長、保育士たちが集まり、ようたの姿についてありのままを伝え、悩みを話し、これからどうしていけばいいか一緒に考えられたことは「私がや　5　かったことはこれだ！」と本当に嬉しく、楽しく、そ

してこれからにつなげたいと強く思いました。

子育てをしていると悩み不安になるのは保育も同じです。良いことはいくらでも言えるけど言いにくい事を保護者に伝える、保育士に伝える時に悩んでしまうのも同じだと思います。でも子どもたちにとっていつもそばにいる大人がお互い隠さずその子について話が出来ること、同じ方向を向いていることはとても幸せなことだと思います。これでいいんだという安心感があれば、安心して子離れができ、子どもを信頼することができると、今 5 年生になった長男を見ていて思います。もちろん全てがすぐに変わるわけではないし、成長とともに悩みもその都度でてきますが、そのときにぶれずに大切なところを持っていられるだけで、思っているより楽に解決できる気がします。子育ての基本と、やりにくさ、こだわりの持ったタイプの子育ては同じだと思います。だから私はこれからももっと発達障害につながることを勉強していきたいと思っています。子育てを楽しむというのは、親本位ではなくて、子どもたちの成長を見守ってサポートして、自立するまでの過程を一緒に過ごせることかなと最近思います。

私はこうして自分の話を個人的に言うことには抵抗ないのですが、多くの人が目を通すつばさっこなどに文章で書くというのは、苦手でした。それはこんなこと書いて誤解されたらどうしようとか、気を悪くする人がいたら嫌だしとか、色んな事を気にしすぎていたのと、本当に自分が伝えたいことは何だろうとまだはっきりしていなかったからだと思います。でも今回はぜひ書きたいと思って書くことができました。それはこれまでの小笹さんとのやりとりで、私の方が相談にのってもらい、思いを共感しあえたことで、自分のやりたいことがまた見えてきたからだと思います。これまで仲嶺園長とも巡回相談のことを何度も話してきました。話すことで考えを整理することができ、そこからまたどうしていこうか考えられました。保護者とも同僚ともこうして一つのことについて深めていけることが、他にはないつばさだからこそできることだなと思います。それは子どもたちにとってとても良い関係だし、それを大切にしていきたいです。そして、子どもたちにとって必要なことを見極める力もこれから保育士として、親として持っていきたいと思っています。

事務室の窓から(不定期コーナー)
～年の初めに～

事務室　一森すずえ

あけましておめでとうございます。

先日、ぜんそく持ちで体調をすぐに崩す子どもを持つ母である友人が会社を辞めました。理由は、子どもに合せて仕事を休まなければならない日が続いたからです。最初は「いいよいいよ」と言ってくれていた職場の人もたまに出勤できても目を合わせてもらえなくなり、早く自主退職をいい出さなければいけない雰囲気となり耐えられなくなったとのことです。しかしこんな話は、めずらしくもなく今に始まったことではありません。これを読んでいる保護者の方もこんな光景見たことがあるのではないでしょうか？つばさでも小さな子どもを持つお母さんがたくさん働いています。休まれると体制が厳しくなるため、風邪や下痢が流行ると職員もその子どももどうかかかりませんようにと祈ります。祈りはしますが、もしそうなってお休みや早退になり、それが続いてもその人が居づらくなるような態度は絶対しません。他の人がそんなことをしないようにも見張っています（笑）。手前味噌ですが、他の職員も同じような感じです。小さな子どもがいて働く父・母を支えるための保育園で、そんな人が居づらくなるような職場であっては絶対にいけないからです。そして、そのお母さんたちも突然に休むではなく、明日には熱が上がりそうならあらかじめ前日に連絡をくれることや、随時事情を説明をしてくれることを努力してくれています。状況を伝え合い、一番無理のない選択をしていくことでお互いを支えあうことができていると思っています。

選挙も終わり、同じ政権が続き、子育て支援施策においても何か大きく変わると期待できるわけでもありません。平成 27 年 4 月から施行される子ども・子育て新制度も疑問を感じることがたくさんあります。しかし、子どもを育てやすい社会となるために必要なことは政策や制度だけではありません。忙しい上に休んでいる仕事が自分に降りかかってきて嫌な気持ちになることもあります。子育て世帯に冷たい周りの雰囲気に合わせておいた方がよいのではと思うこともあります。でも私たちの身近な職場で、そんな理由で仕事を辞めなくてはならない人を作らないようにすること、産休・育休を取りやすく復帰しやすい雰囲気にするなど、みんなが少しずつ意識することでいい雰囲気の職場や社会を作って行くことができます。

そんな雰囲気を自分が作れたときは、あ～今自分はいい社会を作ってるなぁと自分を褒めます(笑)。それからこの人たちがまた誰かに同じことをしてくれたら嬉しいなと思います。

年の初めに、選挙演説のような「事務室の窓から」でした。今年もどうぞよろしくお願いします。